



グリーンポトスニュース

22号：99年6月

お蔭様で、かめざわクリニックは6月5日にて3周年を迎えました。ペインクリニックを中心に在宅医療にと微力ながら地域医療に精一杯励んでいきます。

今月の話題は『痛み』です。

痛み

痛みは辛く、我慢できないものです。痛みが辛いのは、本人しか分からないためかもしれません。辛くても自分しか理解できず、我慢しなければなりません。

では、痛みはなぜあるのでしょうか。痛みはいろいろなことを我々に伝えてくれます。痛みがあるということは我々の身体に何らかの異常があるのです。つまり、痛みは危険信号なのです。足や腰が痛いのは、無理をしているため、休みなさいという身体からのメッセージなのです。また、お腹が痛いのは、お腹の中に何か異常があるためであり、何らかの手当てを必要としているのです。

しかし、それがある限度を超えると話は別です。痛み自体が病気となります。また、痛みの原因となるものが治っているのにも関わらず、痛みだけが残っている病気もあります。帯状疱疹後神経痛などはその代表例です。

痛みがひどいと、痛みにより、身体全体に悪い反応が起きます。痛みがあれば、気分も憂鬱になるでしょうし、仕事の能率も落ちます。肩凝りも、ひどくなると頭痛がして、イライラし、不眠症の原因にもなります。このような状態になると身体のもつ自浄作用のみでは、回復は無理です。これは痛みの本来持つ危険信号としての機能を通り越し、痛み自体が病気となります。

現代医学では、痛みは軽視されてきました。痛みよりも命を脅かす病気を対象にしてきたからです。長寿社会になり、生活の質が問題となってきました。また、ストレスが多い現代社会は、ストレスが様々な形の痛みとして表現されることもあります。片頭痛などはその代表例です。

ペインクリニックは、その痛み自体を相手にする新しい医療なのです。かめざわクリニックは、ペインクリニックを通して、痛みそのものに立向っていきます。御気軽に御相談下さい。

